

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2024年4月17日

1. タバコ税増税とコロナパンデミックが韓国の若者の喫煙率にどのように影響したか
2. 下水サーベイランス（札幌最新）

【松崎雑感】

1. 韓国の調査です。タバコ税を増税すると若者の喫煙率が減った、コロナパンデミックでも若者の喫煙率が減った、しかし、実際に減ったのは「時々喫煙者」だったようだ、という報告です。若者のタバコ使用を占める「毎日喫煙者」を減らすのはなかなか大変なようです。

2. 4月前半で、札幌では、下水の新型コロナウイルスが、再増加しています。油断禁物です。

タバコ税増税とコロナパンデミックが韓国の若者の喫煙率にどのように影響したか

Hong S, Woo S, Kim S, et al. National prevalence of smoking among adolescents at tobacco tax increase and COVID-19 pandemic in South Korea, 2005-2022. *Sci Rep.* 2024;14(1):7823. Published 2024 Apr 3. doi:10.1038/s41598-024-58446-4

従来、主にタバコ税増税とCOVID-19パンデミックが青少年の喫煙行動に及ぼす全体的な影響に焦点を当ててきた。

若者に対するこれら2つの因子の作用を、中断時系列モデル（中断時系列分析はある介入またはイベントが時系列で測定されるアウトカムへおよぼす影響を評価する統計学的手法のひとつ。介入前のトレンドが介入によって中断されているかを、反事実と比較することで評価する）を用いて調べる必要がある。

今研究はタバコ税の増税とCOVID-19のパンデミックが青少年の喫煙率に及ぼす直接的かつ持続的な関連を調査することを目的とした。

本研究では、2005年から2022年までの18年間における韓国の青年($n = 1,159,995$ 、平均年齢14.99、男性51.5%)の全参加者における現在の喫煙率(CSP)と喫煙者中の毎日喫煙者の比率(DSP)を分析するために、韓国の若者のリスク行動に関するWebベース調査のデータを利用した。

本研究では、2015年のタバコ増税と(2019年からの) COVID-19パンデミックの影響が韓国の青少年におけるCSPとDSPの18年間の動向にどのような影響したかを分析した。

成績：CSPは減少傾向をしめしたが、DSP(喫煙者中の毎日喫煙者の比率)は増加傾向を示した。

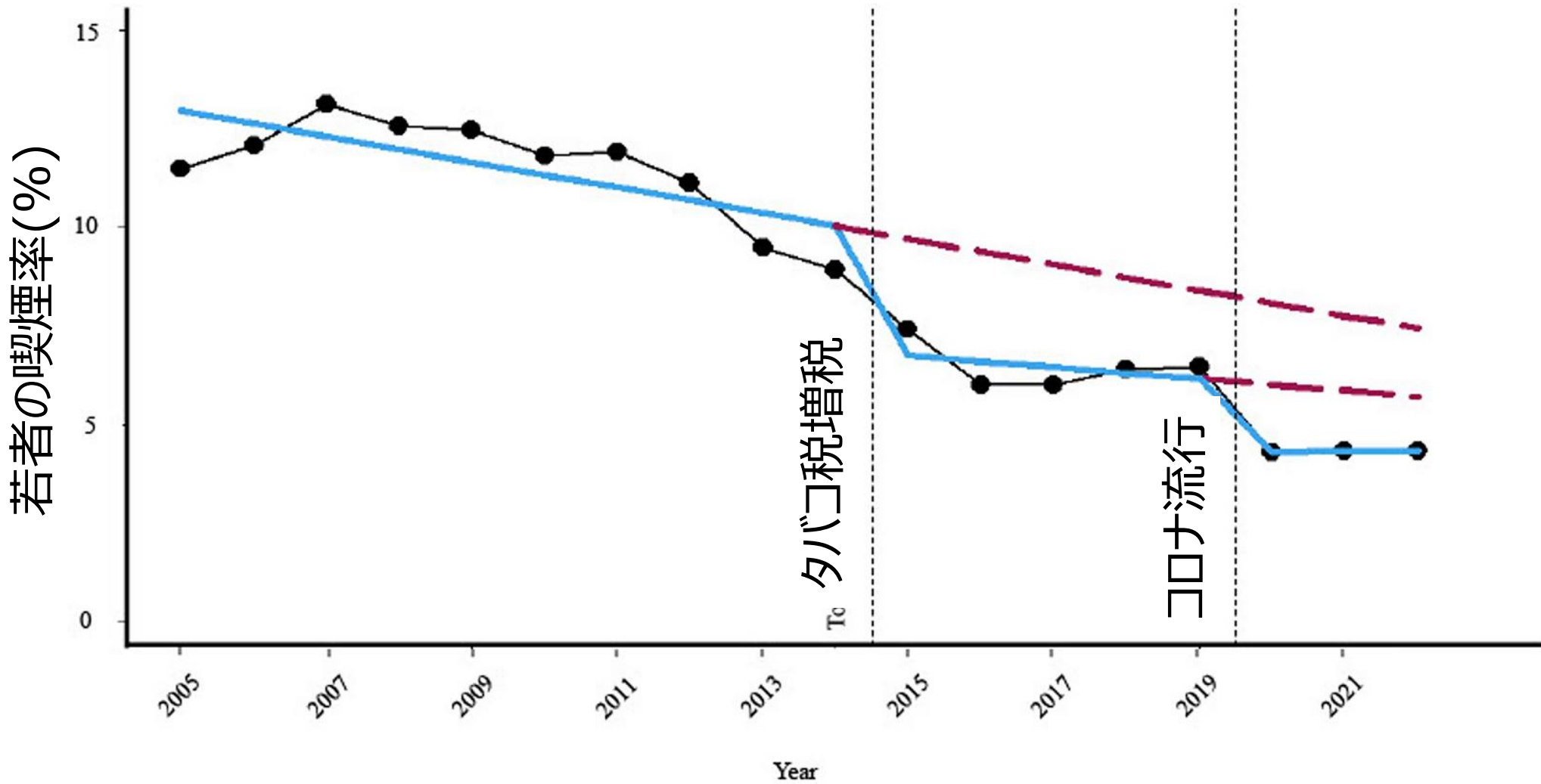
タバコ税の増税は、喫煙率の短期的および長期的関連と関連していたが、有病率に関する短期的な関連(CSP、 -3.076 [95%CI、 $-3.707 \sim -2.445$]; DSP、 -4.112 [95% CI, -6.488 to -1.735])が強かった。

コロナパンデミックは、DSPの即時増加と関連していた(9.345 [95%CI、 $5.285-13.406$])。

これらの影響は、経済的地位の低い青年と家族の受動喫煙にさらされた青年の間で最も強かった。

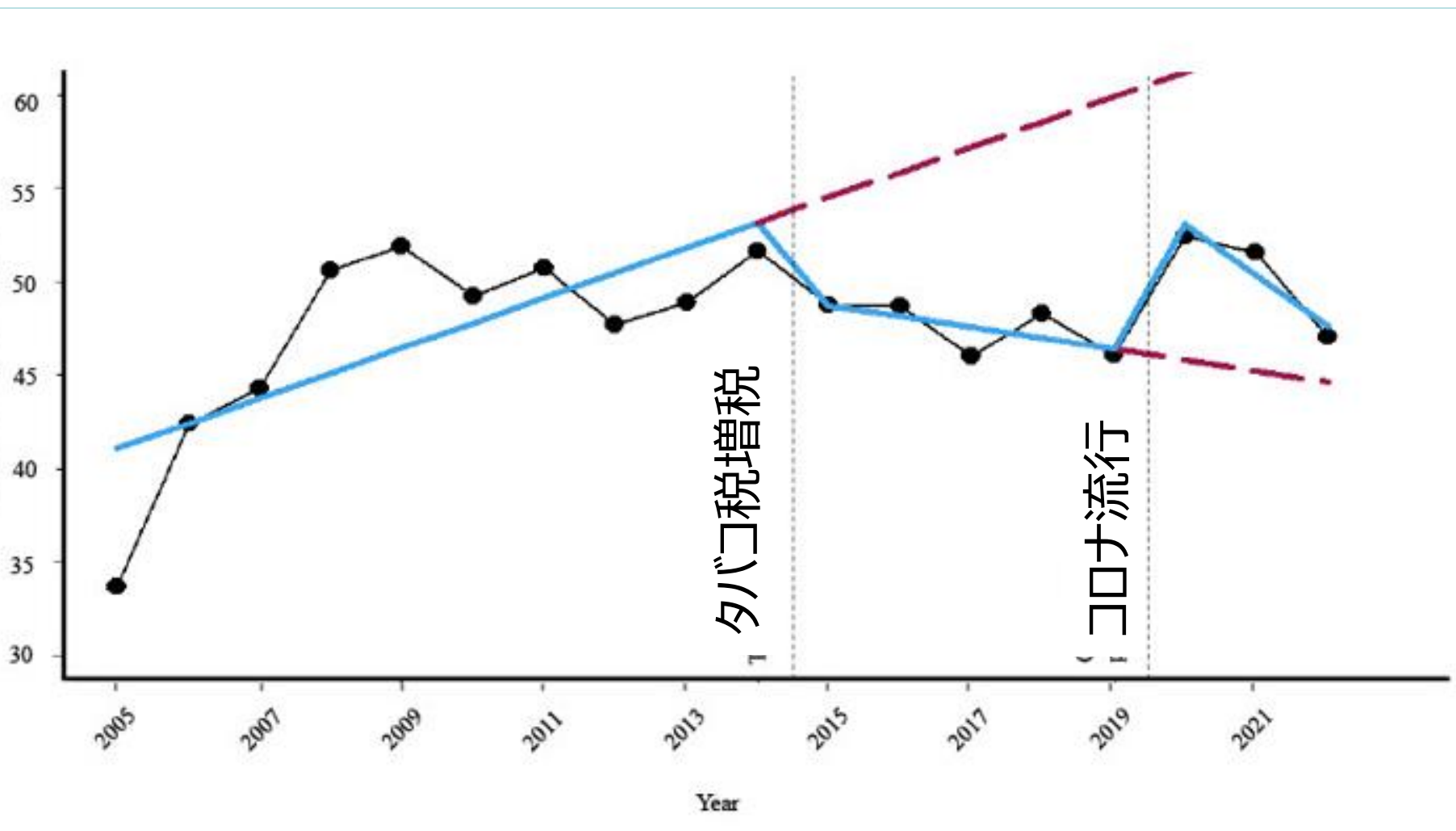
低所得世帯の青少年への支援プログラムは、パンデミックに伴う影響の克服に役立つだろう。

タバコ税の増税は喫煙率の低下と関連していたため、これはパンデミックの影響を克服するための1つの方法である可能性がある。



黒線は実測値。青線はトレンドライン。上赤点線はたばこ増税がなかった場合の予想トレンド。下赤点線はコロナ流行がなかった場合の予想トレンド

全喫煙者に占める「毎日喫煙者」の比率



黒線は実測値。青線はトレンドライン。上赤点線はたばこ増税がなかった場合の予想トレンド。下赤点線はコロナ流行がなかった場合の予想トレンド

新型コロナウイルス濃度は2週連続で増加しており、警戒が必要です。

下水サーベイランスの結果（新型コロナウイルス）

